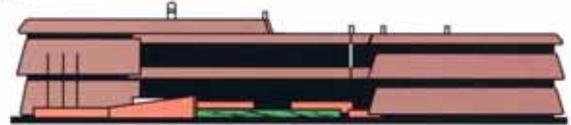


苫小牧市 博物館だより

2003. 3

No. 52



ホッキ漁のようす

ホッキ展

～市の貝・ホッキをめぐる世界～

2003年5月3日(土)～6月8日(日)

苫小牧市博物館・特別展示室

開館時間：午前9時30分～午後5時

休館日：5月5日を除く毎週月曜日と5月6日・7日



マスコットキャラクター
ホッキーくん

2002年7月20日、苫小牧市の貝として制定されたホッキガイ。正式名称はウバガイで、北海道では一般にホッキやホッキガイと呼ばれています。そのホッキと人のかかわりとともに、水揚げ高全国一にまでなった歩みを紹介します。

～ ホッキをめぐる世界 ～

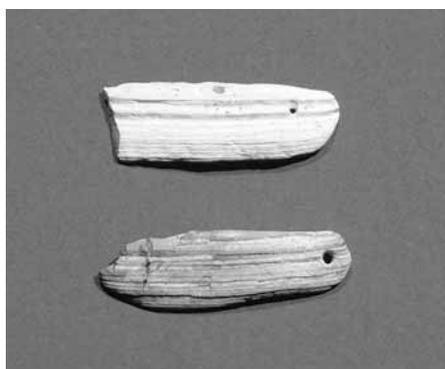
< ホッキガイ、ウバガイ >

ホッキやホッキガイは通称で、正式にはマルスダレガイ目バカガイ科ウバガイといえます。日本周辺では鹿島灘以北から北海道・千島・サハリン、朝鮮半島北部から沿海州にかけての寒い海の砂底に生息しています。

水深2～20mほどの細かい砂の中に潜り、水管を伸ばして海中のプランクトンを食べています。1年で長さ1cm前後、5年で6～10cmに成長します。寿命は30年以上といわれ、大きなものでは15cmほどのものが知られています。120万年前の化石が黒松内町で発見されています。



7千年前のホッキガイ



ホッキガイ製の腕輪

< ヒトとホッキガイ >

大量の貝殻が残されている貝塚。それは縄文時代に入り、それまで陸上の動植物を主な食料としていたヒトが海の資源に目を向けた証拠といえます。ホッキガイが見つかった縄文時代の遺跡は全国で60か所以上あり、その多くは北海道に集中しています。

貝は食料としてだけでなく、道具や装身具としても利用されています。今から5千年以上も前のホッキガイで作られた腕輪やアイヌの人たちは「ポクセイ」と呼んで、柄杓や下駄などに利用しています。江戸時代後半の文献には「ふつき」や「ホツキ」とあり、その頃にはホッキと呼ばれていたことが分かります。

< 獲る漁業から育てる漁業、そして市の貝へ >

市の貝制定後の11月初旬、苫小牧漁港で開催されたホッキフェスタ（漁港まつり）には、多くの市民が訪れ、また、ホッキの名の付いた製品も作られ、苫小牧の特産品として定着した感があります。

苫小牧でのホッキ漁は、明治の初め頃、青森県八戸からの転入者によって始められたとされ、比較的漁獲も良かったようで、明治16年には缶詰製造の計画も立てられています。当時は「熊手の如きもの」、後にマンガヤマンガと呼ばれる漁具で海底をさらう漁法が行われ、昭和の初め頃まで数10トン前後と比較的安定した水揚げが得られていました。



多くの市民で賑わうホッキフェスタ



ホッキガイの缶詰

昭和10年代には300トン前後となり、安定していましたが、28年から100トン以下に減少し、30年には禁止区域や禁漁期間を設け、資源確保に努め、35年には500トンを超す成果が得られています。しかし、それも永くは続かず、200トン前後と低迷する中、51年から4年間の稚貝放流による栽培漁業や60年からの噴流式漁法への転換と相まって、次第に水揚げを伸ばし、平成元年には657トンと全国一を達成しています。その後も、資源安定を図る事業を進め、平成5年から1,000トンを超す年が続きます。現在は、資源確保のため、年間900トンと計画的な生産が行われています。

企画展「博物館の優品展～見せます!お宝・珍品～」

2月22日(土)から3月30日(日)までの期間、第10回企画展「博物館の優品展」を開催しました。当博物館で収蔵している資料約13万点のなかから自然・生物・考古・アイヌ・歴史・民俗・芸術の各分野で選りすぐった逸品や珍品など約80を展示公開しました。

自然・生物



ウミサソリの化石

自然は、古生代を代表する三葉虫をはじめとして、ウミサソリの化石、カプトガニの化石や原生標本のほか、ウミユリやその仲間のウニやヒトデの化石などを、進化や生態を含めて紹介しました。

生物は、現在ではその生息数が減少し、絶滅危惧種とされている特別天然記念物のタンチョウや天然記念物のシマフクロウのほか、中国・台湾など東アジア原産で、移入種のソウギョの剥製を展示しました。

考古・アイヌ

考古は、静川5遺跡で発見された道内最古の注口土器をはじめ、柏原5遺跡で発見された東北地方からの搬入品と考えられる大型の黒漆塗り注口土器など、市内の遺跡から出土したものを中心に、縄文時代から続縄文時代の注口土器にみられる造形美とその機能について紹介しました。

アイヌでは、木の内皮で作った樹皮衣(アットウシ)などの衣類のほか、首飾り(シトキやタマサイ)・耳飾り(ニンカリ)などの装身具、行器(シントコ)や耳だらい(キラウシパッチ)などの漆器類を展示しました。

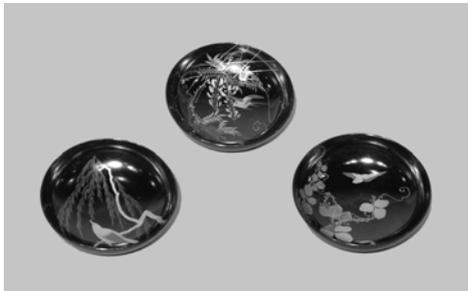


静川5遺跡出土注口土器

歴史・民俗

歴史は、明治の頃の蒔絵がほどこされた椀や菓子器、硯箱を製作技術を含めて紹介しました。

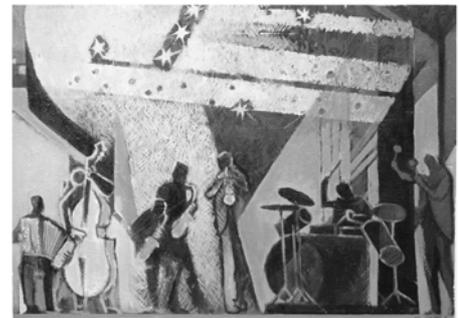
民俗は、1936年第4回冬季オリンピック大会にスピードスケート選手として出場した中村礼吉氏が使用したユニフォームやスケート靴、王子製紙からロッセオリオンズに入団した高沢秀昭氏のユニフォームやバットなどを展示しました。



花鳥漆器椀

芸術

芸術は、川上澄生氏の版画「ランプ三題」(1946)をはじめとして、遠藤ミマン氏の「ジャズ」(1997)や第7回苫小牧美術大賞展でサンプラザ賞を受賞した馬場静子氏の大作「くさむら」(1994)といった油絵、毛利寿海氏の書「ふるさとの鳥はさえずる」(1980)を展示しました。



遠藤ミマン「ジャズ」

珍品

珍品は、どれも貴重な品ばかりで、明治の頃の片面レコードや紙腔琴(紙で音を鳴らすオルゴール)、自動ハエ取り器、昭和の初め頃の人力車(複製)のほか、植苗に在住していた折居彪二郎氏がサイパン島で採集した貝斧、美沢3遺跡で出土した約6,000年前の幼児の足形が付いた土版を展示しました。



自動ハエ取り器

博物館トピックス

博物館大学講座

大学講座は、3月15日(土)の最終講義の後卒業式が行われました。今年度は自然部門が3回、芸術部門が2回、歴史部門が4回の講義があり、そのうち7回以上出席された方を卒業と認め、博士6名(8回卒業)、修士4名(6回卒業)、学士8名(4回卒業)の課程修了者を含め、74名の方が卒業されました。

卒業生を代表して4名の方に学長(館長)から卒業証書が手渡され、総長(福島教育長)より祝辞が述べられました。大学講座も17回を数え、この間に卒業された方は千名を超えています。また、通算で4回以上卒業された各課程の修了者も224名にのぼり、継続的に受講される方が多いのも、本講座の特色といえます。

社会科自由研究発表会

9月21日(土)には苫小牧教育研究会社会科部会との共催で、市内小中学生を対象とした「夏休み社会科自由研究発表会」が開催されました。今年は約80作品の応募があり、そのうち審査を通った入賞作7作品の発表と表彰が行われました。

作品の傾向としては、福祉や環境問題をテーマとしたものが多くみられた一方で、苫小牧市の貝「ホッキ」や「マンホールの蓋」を調査したものなど、地域の生活に根ざした作品の健闘も目立ちました。

入賞作は博物館特別展示室に展示され、郷土学習で訪れた生徒達も興味深そうに見学していました。

土曜ミュージアム

毎週土曜日に行われた「紙すき体験教室」は開催日数46日を数え、延べ600名を超える児



童が参加しています。なかには、親子で作る姿もみられました。1日の平均は13名で、午前5名、午後8名と比較的午後に多く参加する傾向がみられました。また、月別では開催当初の4~6月が80名前後と多く、その後減少し始め、年賀状の季節でもある12月が最も少ない30名というのがやや意外でした。

「昔の遊びのコーナー」では、親子で参加し、子供よりも親の方が懐かしがって夢中で遊ぶ姿もみられました。

新年度からは「ペーパークラフト教室」を加え、趣向を凝らしたものにしてい予定で

土曜体験教室

12月から4回にわたり土曜体験教室が開催されました。

- 12月 7日「絵馬作り」
- 1月18日「化石レプリカ作り」
- 2月15日「はにわ作り」
- 3月 8日「うちわ作り」

それぞれ定員は30名でしたが、毎回募集開始と同時に定員となり、人気の高さをうかがわせます。親子で参加される方も多くみられ、会場は定員を超えるほどの賑わいをみせていました。

新年度からは新たな内容を加え、回数を増やし、より多くの市民の方が楽しく参加できるよ

うな体験教室を開催する予定です。





悪戦苦闘の「しめ縄づくり」

昨年までの「もちつき」にかわっての「しめ縄作り」だったが、ワラを使って、自分の手で作るのは初めての体験であり、材料のワラでさえ全くといってよい程、触れたことがない。そして「結ぶ・編む」ことが苦手である私は、今回に限っては「楽しみ」より「不安」の方が大きかった。

講師の指導で、各自ワラを編み始めると、だんだんと「不安」が「焦り」へ、そして「いらだち」へと変わっていった。ワラを上手く編めず、縄にできず、乾燥し始めたワラがポロポロと散らばっていった。他の参加者が次の行程へと進む中、一人悪戦苦闘を続けていたが、そんな私に手が痛がゆくなるという最悪の事態が生じたのである。

その時の心境は、編めば編むほどポロポロになってゆくワラそのものであり、すればするほど上手くゆかず、手の痛さに思わず悲鳴を上げたくなくなってしまった。結局、先生に仕上げまでしてもらったのだが、何とも情けなくなってしまった。

わずか数10年前までは、日本の農村の至る所でしめ縄を作って飾っていたそうだが、今ではしめ

縄を作らないどころか、飾らない人もいるとか。わずかの間に、日本に古くから続く文化が変化もしくは失われつつあることが改めて感じられた。そして、私自身も日本の伝統的な文化を失っている世代の一人であることをかみしめた。

かつて人々が様々な願いを込めてしめ縄を編んでいたことは、そこに「日本人の心」があったのではなからうか。

苦心の末、できあがったしめ縄は正月に我が家の玄関先を飾り、「どんど焼」で「不器用」と「情けない」自分とともに供養してもらったのである。

(学生会員 高橋 憲幸)



「この手から新たに生まれ変わる紙」

～牛乳パックから作る手すき葉書～

牛乳パックから手すき葉書を作る～もう何年も前から新聞やテレビ・雑誌などを通して見聞きしていたものの、いざ自宅で作るとなると何だか面倒くさそうで、興味はあっても結局作らないまま現在に至っていました。そこへこの企画。体験できるこの機会を逃がしてなるものかと、早速参加申し込みをしました。

当日の朝は、心なしか浮き浮きしながら葉書のデザインを空想したり、「何か模様を漉き込めるかしら」と漉き込む材料を探したりと、童心にかえっての身支度でした。ところが博物館に着いてみると、残念なことに参加者は2人きり。張り切っていただけに何となく拍子抜けしてしまいましたが、気を取り直していざ実践！！

使用する道具は、紙を漉くための木枠と金網を除けば、たいていは家庭にあるものばかり。ミキサーとトレイ、アイロン、タオル等、至ってシン

ブルです。仕上がりはお世辞にもきれいとは言えませんが、味わいのあるオリジナルの“傑作”ができあがりました。ドライフラワーや色紙を漉き込んでみると、また独特の質感と表情が生まれ、新たな傑作が誕生しました。

かつてパソコンの普及に伴い、やがてはペーパーレスの時代が到来するとまで言われました。しかし、現実には紙の需要は高まり、環境問題とも相まって古紙の国際取引価格は年々高騰しています。中国などの大国が日本並みに紙を消費し始めたらと考えると・・・。

街頭で配られるポケットティッシュやチラシを受け取る度、日本はなんと豊かで恵まれた国なのだろうかと思感します。紙の消費大国ニッポン。ならば、製造技術だけでなく、一消費者である私たち自身も、その名に負けないくらいの紙に対する愛着や感謝の気持ち、知識やりサイクル活動への関心を持つべきではないでしょうか。そんな気風を「紙のまち」苫小牧から全国へと発信できることを願っています。

(一般会員 揚妻芳美)

展示室から

アイヌの暮らし ~小 刀(マキリ)~

狩猟・漁撈・採取・調理そして木彫りなど、アイヌの人たちにとってマキリ(小刀の総称)はもっとも大切な利器でした。

江戸時代後期に描かれたアイヌ風俗画を見ても、男たちの腰にはタシロ(山刀の総称)やマキリが下げられ、それが生活・生業に欠かすことのできない必需品であったことがわかります。

彫刻の技は一人前かどうかの目安になったので、男たちは精魂込めてマキリの柄や鞘に美しい彫刻を施しました。この装飾文様にはイクパスイ(捧酒籠)のそれと同一のものも多くあります。また、柄や鞘には鹿角や獣骨がはめ込まれたり、根付けにガラス玉や獣の牙などが用いられるなど、その素晴らしい工芸の技にアイヌ芸術の粋を見ることができます。

当館には、鞘付きのマキリが2丁、鞘なしのマキリが1丁、小刀鞘(ケブシペ)が5丁所蔵されています。内1丁がふつうのマキリよりも小型で反りがつよく、メノコマキリ(女用小刀)と考えられます。



【新着寄贈資料紹介】

(平成14年8月~平成15年2月)

資料名	数量	分類	住所	寄贈者
レコード(童謡・浪曲・浪花節・流行歌ほか)	30	民俗	苫小牧市	川山ミドリ
モック・壁掛電話機(デルビル磁石式)・水平器・鉋ほか	8	歴・民	苫小牧市	岡部 重一
写真(王子軽便鉄道三哩付近・水溜公園ほか)	4	歴史	苫小牧市	大西 俊雄
野球ボール(苫小牧東高校・第70回選抜高校野球出場記念)	1	歴史	苫小牧市	本間トモエ
油彩画(内瀧光尚・土屋康子・森本郁子・大場道子ほか)	20	芸術	苫小牧市	苫小牧美術協会
復刻絵はがき・5枚組(能登正智作)	2	芸術	苫小牧市	能登 曜
柳行李・鞆・番傘・法被	14	民俗	苫小牧市	鎌田 国孝
バス停留場標識(旧支笏湖線・三哩・六哩・十哩)	7	歴史	札幌市	北海道中央バス
ポスター・質札(明治38年頃)・領収書(銃後奉公會會費)	26	歴・民	苫小牧市	野土谷未松
漁業用おもり(炬器製)	1	民俗	苫小牧市	熊谷 利吉
ひな人形・置時計・反物・糸巻・糸・パイアステープほか	32	民俗	苫小牧市	梅木 睦子
花器・雪下駄・湯わかし	4	民俗	苫小牧市	菅野 知也
カラーテレビ	1	民俗	苫小牧市	相武 紹夫
バッジ(第75回記念日本学生氷上競技選手権大会)	1	歴史	苫小牧市	榊川 順司
製図道具・三角定規・計算尺・分度器・たたみ尺・杯・メダルほか	34	歴・民	苫小牧市	梅木 睦子
セミエビ・ヤコウガイ・キクメイシ・サザエほか	6	自然	苫小牧市	金泉 秀雄
レコード(浪花節・小唄・端唄・軽音楽・流行歌・童謡)	48	民俗	苫小牧市	紺谷るり子

(歴・民=歴史・民俗)

【月別入館者数】

(平成14年8月~平成15年2月)

	個人					団体					合計
	大人	高校生	小人	幼児	小計	大人	高校生	小人	幼児	小計	
8月	6,456	87	1,099	341	7,983	67		99		166	8,149
9月	11,009	150	1,270	403	12,832	30		224	45	299	13,131
10月	489	1	510	67	1,067	60		1,164	42	1,266	2,333
11月	982	10	621	135	1,748	71		781		852	2,600
12月	300	9	278	36	623	5		136		141	764
1月	307	6	251	37	601					0	601
2月	478	7	233	41	759					0	759
合計	20,021	270	4,262	1,060	25,613	233	0	2,404	87	2,724	28,337

苫小牧市博物館だより

平成15年3月31日発行・第52号
編集・発行 苫小牧市博物館

〒053-0011 苫小牧市末広町3丁目9番7号
TEL (0144) 35-2550~2552